

2022年3月期 第3四半期 決算説明補足資料

2022年2月7日

株式会社 ドリームインキュベータ
(証券コード4310)



DI

業績のポイント

構造改革に取り組中

- ビジネスプロデュースへの資源投入、ベンチャー投資の抑制・回収 等

業況

(全体)

- 調整後経常利益：12.3億円 (> 通期目標5~10億円)

(事業別)

- ビジネスプロデュース：受注が想定を上回り好調に推移。
通期見通しも前期比増収減益⇒増収増益へ転換
- ベンチャー投資：トレードセール・IPO等で回収複数件実現で黒字転換。
第4四半期もIPO等による追加回収を見込む
- 事業投資：
 - アイペットは通期経常利益予想*を8.8億円→11.3億円へ上方修正
 - ピークスは構造改革を加速中。第3四半期 期間損失幅は上期に比べやや縮小

2022年3月期 第3四半期 連結P/L（保険項目調整後）

| (単位：億円) | 2021年 3月期 第3四半期 | 2022年 3月期 第3四半期 | 対前期比 | |
|------------|-----------------------|-----------------------|------|--------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 199.3 | 261.0 | 61.7 | 31.0% |
| 売上総利益 | 86.4 | 119.5 | 33.1 | 38.4% |
| 営業利益 | 1.6 | 9.9 | 8.3 | 517.9% |
| 経常利益 | 1.9 | 12.3 | 10.4 | 545.9% |
| 親会社株主帰属純利益 | ▲2.4 | 4.3 | 6.8 | — |

2022年3月期 第3四半期 連結P/L (保険項目調整前)

参考

| (単位：億円) | 2021年 3月期 第3四半期 | 2022年 3月期 第3四半期 | 対前期比 | |
|------------|-----------------------|-----------------------|------|-------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 199.3 | 261.0 | 61.7 | 31.0% |
| 売上総利益 | 81.8 | 109.7 | 27.9 | 34.2% |
| 営業利益 | ▲2.9 | 0.1 | 3.1 | — |
| 経常利益 | ▲2.6 | 2.5 | 5.2 | — |
| 親会社株主帰属純利益 | ▲4.3 | 0.4 | 4.7 | — |

保険会計の調整項目及び調整額

| (単位：億円) | 2021年 3月期 第3四半期 | 2022年 3月期 第3四半期 |
|-------------------|-----------------------|-----------------------|
| 調整前売上総利益（連結） | 81.8 | 109.7 |
| ● 普通責任準備金に関する調整額* | ▲0.6 | +3.3 |
| ● 異常危険準備金繰入額** | +5.2 | +6.4 |
| 調整額合計 | +4.5 | +9.7 |
| 調整後売上総利益（連結） | 86.4 | 119.5 |

* 普通責任準備金の算定を初年度収支残方式から未経過保険料方式へ変更した場合の調整額（戻入れの場合はマイナス）
** 繰入額の影響を排除（戻入れの場合はマイナス）

保険項目の調整に関する補足

1. 普通責任準備金に関する調整

- 損害保険会社は、保険業法に基づき、普通責任準備金を、2つの方式（未経過保険料残高と初年度収支残高）で計算し、いずれか大きい方を負債計上する必要
- 上記に基づき、アイペット損保では制度会計上は初年度収支残高によっているが、**発生主義による利益と同額**となる未経過保険料方式での損益を重要視
- また、上場企業において初年度収支残方式に基づく損害保険会社が存在しないため、**競合他社比較の観点**からも、未経過保険料方式により算定された損益開示が投資判断に有用と判断

2. 異常危険準備金に関する調整

- 異常危険準備金は、異常災害による損害の填補に備えるため、法令により積み立てておくこととされている責任準備金の一種
- 法令で定める基準損害率を超える場合には、その損害率を超える部分に相当する金額を取崩し（費用のマイナス）、低い場合には、積み立てる必要
 - アイペット損保では、損害率が基準よりも低いため、収入保険料に3.2%を乗じた金額を每期積み立て
- **実質的な損益実態を把握する**指標として、取崩し・積み立ていずれの場合でも、当該影響額を除いた損益を重要視

2022年3月期 第3四半期 セグメント別P/L

(単位：億円)

2021年
3月期
第3四半期

2022年
3月期
第3四半期

対前期
増減率

概況

ビジネス
プロデュース
セグメント

● 売上高 16.3
● 経常利益 1.9

20.3
2.7

24.1%
40.9%

● 事業創造ニーズの高まりを背景に
想定以上の受注。人員増強等の
コスト増も吸収し、増益
● 通期も増収増益の見込み

ベンチャー投資
セグメント

● 売上高 9.7
● 経常利益 ▲6.0

7.7
2.7

▲20.4%
-

● トレードセール・IPO等で回収複数
件実現で黒字転換
● 4QもIPO等による追加回収を見
込む

パットライ
スタイル
セグメント

● 売上高 165.7
● 経常利益* 6.6

209.9
10.8

26.7%
61.6%

● 経常利益の通期予想を8.8億
→11.3億へ上方修正

事業
投資

HR
イノベーション
セグメント

● 売上高 7.7
● 経常利益 ▲0.6

9.7
▲1.2

25.6%
-

● 売上・粗利は堅調
● 成長のための人材・DX投資を
継続

ファン
マーケティング
セグメント

● 売上高 -
● 経常利益 -

13.9
▲2.6

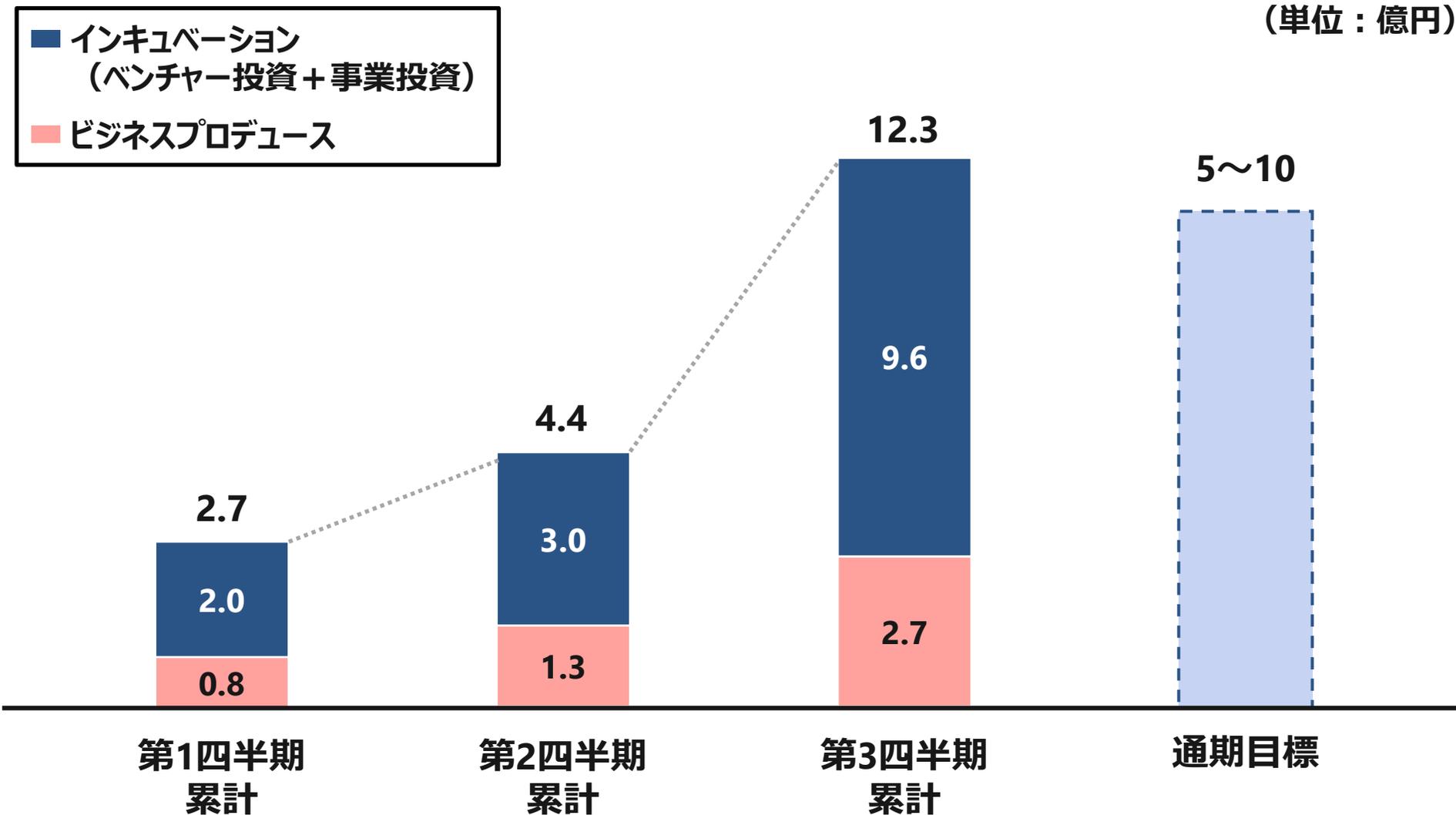
-
-

● 構造改革が進展
● 3Q期間損失幅は上期に比べやや
縮小

* 保険項目調整後
注： 経常利益：セグメント利益 - 全社費用負担額 ± 営業外損益

2022年3月期 定量目標（経常損益*） 進捗状況

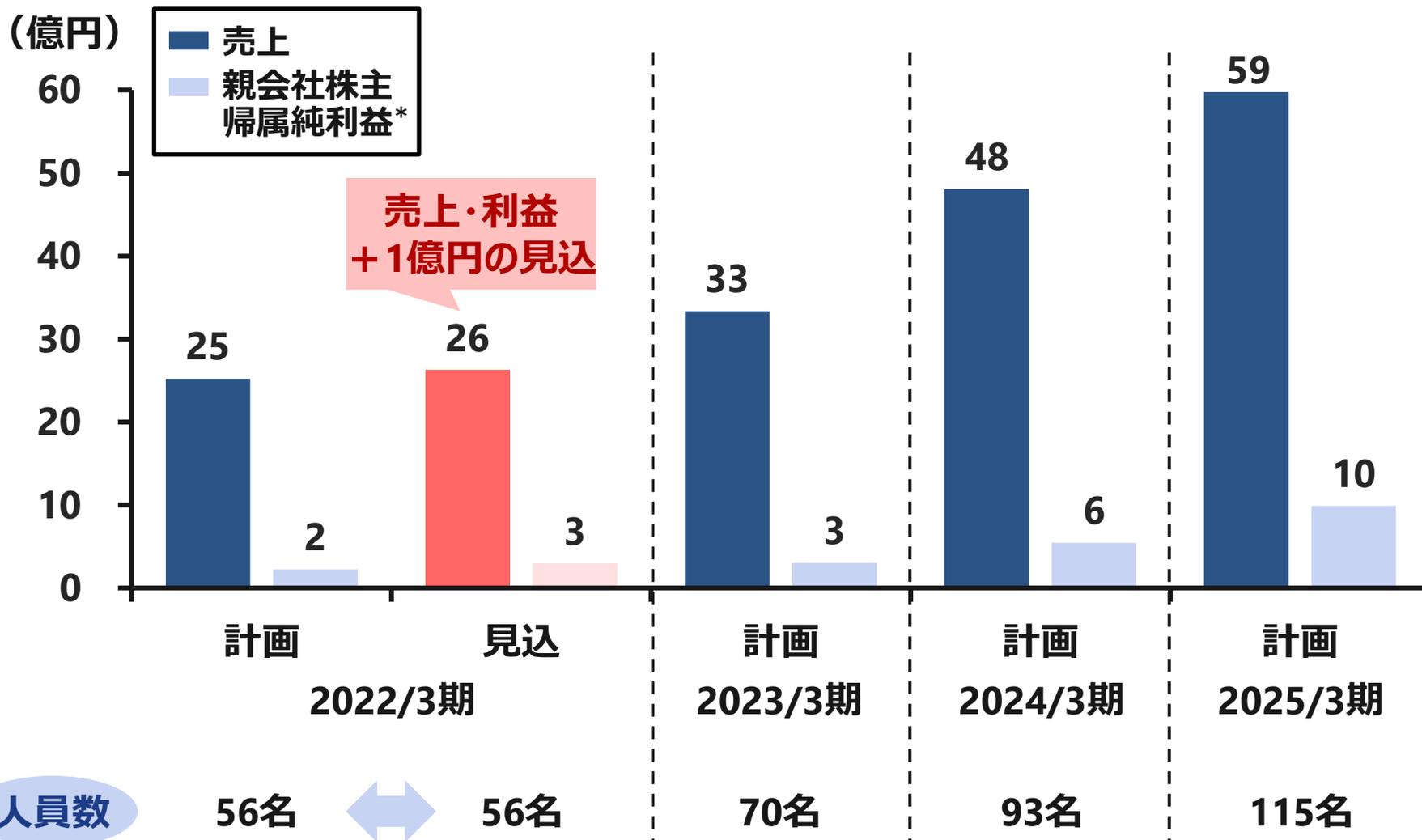
（単位：億円）



* 保険項目調整後

プライム適合に向けた取り組みは着実に進捗

ビジネスプロデュース部門 プライム適合計画(2021/12/22開示)進捗状況



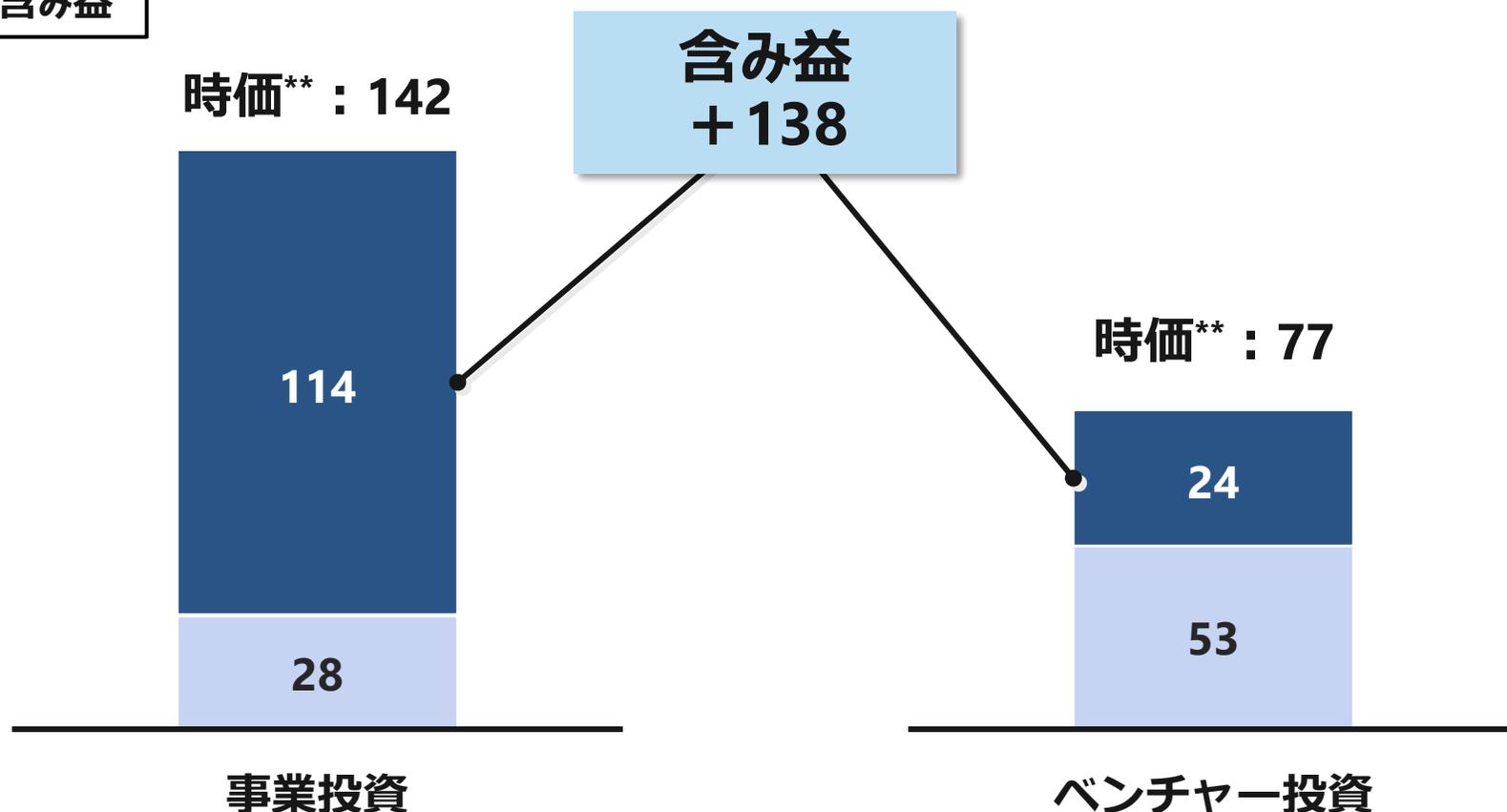
* 簡便的に経常利益×税率30%で試算

投資含み益も138億円有り

投資育成先の2021年12月末時点の含み益状況



(単位：億円)



*

ファンド投資は自己持分のみ

**

上場銘柄：期末時点時価総額 × 当社持ち分

未上場銘柄：期末時点投資簿価残高 ± 時価評価差額（直近ファイナンス価格や第三者取引価格）

上記価格が無いものは再評価せず、簿価評価

ベンチャー投資は税引後、事業投資は税引前

2022年3月期 第3四半期 連結B/S

2021年3月末
(総資産：295億円)



2021年12月末
(総資産：319億円)



企業価値向上にコミットし、成果を株主の皆様と分かち合うため、幹部社員の年収の一定割合を、自社株式で支給しています。

- 対象者： 常勤取締役・執行役員 16名、シニアマネジャー 6名
- 年収に占める株式支給割合： 常勤取締役・執行役員 2割、シニアマネジャー 1割
- 留意点： 株式報酬はESOP信託（取締役はBIP信託）で支給しており、退職時までポイントで管理されるため、個人の持株数としては開示されません

DI = The Business Producing Company

Mission : **社会を変える 事業を創る。**

Vision : **挑戦者が一番会いたい人になる。**

Value : **枠を超える。**

- 領域の **枠を超えて** 構想する。
- 常識の **枠を超えて** 戦略を立てる。
- 組織の **枠を超えて** 仲間を集める。
- 自分の **枠を超えて** 挑戦する。

免責事項

本資料内に記載された将来の見通しや戦略等は、作成時点において入手可能な情報に基づくものであり、目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。将来の業績は、経営環境の変化、投資先企業の業績の悪化、金融商品市場における株価の変動等の要因により実際とは大きく異なる可能性があります。

また、本資料の内容は将来予告なく変更されることがあります。本資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合し、利用者の判断によって行って頂きますようお願い致します。本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

Dream Incubator Inc.

The Business Producing Company